



## 研究倫理はなぜ大切？



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。きっと、大学という新しい自由な環境で学ぶということに胸を躍らせていることでしょう。大学における学びは研究と不可分であり、皆さんはこれから研究に徐々に親しんでいくことになります。ここでは、その研究をめぐる倫理について、少しお話しをさせていただきます。

このところ、毎年のように日本からノーベル賞受賞者が出ています。2019年の暮れに、「リチウムイオン電池の開発」という見事な研究成果により、旭化成名誉フェローの吉野彰博士がノーベル化学賞を受賞されたことは、まだ記憶に新しいことと思います。2008～2019年の12年間の日本からの受賞者数は12名にもなります。明治時代以後、大学を中心にして営々と学び、研鑽してきた日本の学問研究の蓄積が、ようやく花開いているのだと言えます。すばらしいことです。新入生の皆さんは、このようなすばらしい豊かな学問研究の場である大学に加わってきたのです。大いに学修・研鑽を重ねてほしいと思います。

ところで、科学をめぐるっては良くないことも最近ありました。2014年のSTAP細胞論文の問題は、多くの皆さんがまだ記憶にとどめておられることでしょう。STAP細胞論文問題は、いわゆる研究不正に関わる問題です。STAP細胞論文は、ネイチャー誌への発表当時は、「世紀の大発見だ」、「ノーベル賞ものだ」ともてはやされました。

しかしその後すぐに、画像や実験データに多くの疑問点があるとの指摘が内外からなされました。これらの指摘を受けて、STAP細胞論文の内容を調査するために調査委員会が設置されました。そして、この調査委員会は調査の結果、①STAP細胞が多能性を持つという論文の結論は否定されること、②論文の画像等に不正や誤りが多々あること、③論文の図表の元になる実験記録やオリジナルデータがほとんど残されておらず、「責任ある研究」の基盤が崩壊していること、④それらの誤りを共同研究者や論文の共著者が見落とししか見逃したこと、などを指摘しました。その後、著者らは発表した論文を撤回しました。

この調査委員会の指摘には、本冊子のテーマである情報リテラシー（情報活用

能力)、そして研究倫理に関わる重要な教訓が含まれています。

万有引力の法則を発見したアイザック・ニュートンは、同じ自然哲学者であるロバート・フックへ宛てた手紙で、「私がより遠くまで見渡せたとするなら、それは巨人の肩の上に乗ることによってだ」と述べたとされています。これは、先人が積み上げてきた知識の上に立って初めて自分の研究の成果があるという意味です。学術の進歩のあり方を見事に言い表した言葉ですね。

しかし、もしも“巨人の肩”だと思ったものが嘘で固められたものであったら、どうなるでしょうか。先人が積み上げてきた知識が嘘であったなら、それを基にさらに研究をする以後の人々の努力は無駄になってしまいます。これが学問・研究に倫理が必要なゆえんです。

学問においては、資料や実験・観察事実<sup>1</sup>に立脚することが重要です。そして、実験や調査・観察の結果は研究ノートに日付入りできちんと書きとめること、さらにこれをある程度の期間、保存しておくことなどが基本となります。

研究ノートの記録・保存は、成果が正しいかどうかを後で確認することを可能にする手段にもなるため、たいへん重要なものです。研究成果に嘘がないことを証明することも可能となり、研究者・著者（つまり皆さん自身）を守ることに繋がります。これから大学で学問を修める皆さんには、文系・理系に関係なく、こうした事実に基づいた記録とその保存を、日々のレポート作成や論文作成等の中で心がけていただきたいと思います。

学問、特に科学の重要な特色のひとつは、後から誰にでも検証が可能な形で知見を蓄積していくところにあります。だからこそ、報告された結果が嘘でないことを判断しやすく、それゆえ信頼性も高いのです。実験や観察は、後から追試ができるように、どのようなやり方で実験や観察を行ったのかを論文に丁寧に記述します。また資料を引用する場合には、後から誰でもその引用を確認できるよう、出典を必ず明記します。このようにして、先人のオリジナリティを尊重し、また自分のオリジナリティのありかを明確にします。最近では、論文に記す実験・観察結果の大元のデータをもインターネット上で世界に公開しようという動きも出てきています。

さて、ここで簡単なまとめをしますと、**研究倫理とは、記録や論文作成にあたって上記のような学問の基本的なルールを守ること**なのです。先に触れたSTAP細胞論文では、この研究倫理が全くないがしろにされていました。STAP

細胞論文問題は、これから大学で勉学し研究に関わっていく皆さんにとって、研究倫理に関する大きな教訓となることでしょう。

本冊子には、レポートの書き方と著作権の関係など、研究倫理の基礎となる事項が掲載されています。大学人として皆さんが当然に知っておくべき重要な事柄ですので、丁寧に読んで理解してください。そしてその後には、「琉球大学研究者倫理規範」（下記 URL）などにも目を通していただきたいと思います。これは、学生も含め、本学の研究者が守るべき倫理規範について簡潔にまとめたものです。

琉球大学ではさらに「琉球大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」等も定め、研究倫理の向上に取り組んでいます。これらについては、以下のように研究推進機構のホームページからもアクセスできます。特に、これから研究に着手するといった段階の方は、ぜひご一読ください。

最後に、皆さんが琉球大学で充実した大学生活を過ごされることを願って結びといたします。

（研究推進機構）

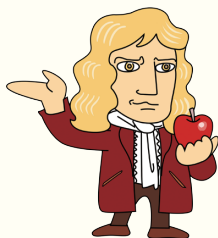
<https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

（琉球大学研究者倫理規範）

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/966b3289888d405f90250615d4efe14b.pdf>

（琉球大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程）

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/d9e8665c816d104b58e701a64cf12672.pdf>



琉球大学理事・副学長  
琉球大学研究推進機構長  
木暮 一啓